

# 会議録要旨

会議名	令和5年度 第2回藤沢市下水道運営審議会		
開催日時	2023年（令和5年）8月1日（火）午前9時57分～午前11時26分		
開催場所	本庁舎5-1、5-2会議室		傍聴者数
			0人
出席者	会長	杉渕 武	
	委員	稲田 圭祐      井上 美鈴      齋藤 力良      渡井 大輔      小林 敦子 船橋 國比古    橋本 修      深澤 潤子      矢出 乃大	
	事務局	近藤下水道部長 [下水道総務課] 張ヶ谷参事・指旗主幹・草柳主幹・鈴木主幹・工藤補佐・小松補佐 外山専任補佐・吉原専任上級主査・東嵩西主任・中澤・近藤 [下水道管路課] 中村課長・山口補佐・矢口補佐 [下水道施設課] 濱野参事・竹内辻堂浄化センター長・佐藤大清水浄化センター長 田中補佐・鷺塚補佐・斉藤補佐・山村補佐	
議題及び公開・非公開の別	1 令和4年度藤沢市下水道事業費特別会計決算について その他 <span style="float: right;">（すべて公開）</span>		
非公開の理由			
審議等の概要	<p>《議題》</p> <p>1 令和4年度藤沢市下水道事業費特別会計決算について 資料1～3に基づき説明。</p> <p>【質疑】</p> <p>(1) 資料2の説明の中で、施策2の事業2のストックマネジメント事業で、管路の調査が中期経営計画の目標値を下回ったとのことだが、これはどのように評価したら良いか。</p> <p>《回答》 調査委託を発注したところ入札不調が多く、予定数量に達しませんでした。今後は包括的民間委託により、目標の事業量を達成していきたいと考えています。</p> <p>(2) 資料2の施策4の事業4の流域治水事業について、引地川も境川も管理者は県である。引地川は県が計画を見直すのに藤沢市も参画させてもらうということと理解しているが、境川の方はまだ流域治水の計画ができていないという理解で良いか。</p> <p>《回答》 境川に関しては計画が未策定であり、昨年度藤沢市で策定した雨水管理総合計画での、鶴沼東部排水区ポンプ場の計画を入れていただく形で参画することを考えています。</p> <p>(3) 資料3の④企業債残高対事業規模比率について、説明の中であった数値275.6%はこの表の中には記載されていないようだがそれで良いのか。</p> <p>《回答》 説明の中で申し上げた275.6%については令和5年度の目標値で、令和4年度の決算値の説明が漏れておりました。令和4年度の決算値は381.77%です。</p>		

審議等の概要

(4) 資料1で、電気料金の増加を理由に営業費用が増えており、その影響で経費回収率が悪化しているという説明があったが、令和4年度は経常収支比率は100%をおり、中期経営計画の経営計画目標を見直す必要までではないと判断しているのか。

《回答》

資料3の①経常収支比率については、100%を超えるのが良いとされてます。令和4年度は、電気代の高騰の影響はあったものの、100%を超えることができたので、経営状況的には問題ないと捉えています。

(5) 資料2の令和4年度実績について、進捗管理をする上で、全体目標に対する進捗率（パーセントなど）があると分かりやすと思う。

《回答》

今回は毎年度の年次計画と、令和4年度の実績を比較するような形で記載させていただきました。今後は、その目標値に対しての進捗率を記載することも検討します。

(6) 資料3の下の「2. 老朽化の状況」について、②の老朽化率がだいたい10%ぐらいなのに対して③の改善率が0.1%以下となっており、老朽化した管路の改善が進んでいないと考えられるがいかがか。

《回答》

管路の改修については、状態を監視して不良などを行っていますが、一遍に全部は行えないので、下水を流す機能が確保でき、陥没する可能性が低い箇所は、改修を後年度に回すことも考えています。このため、全体の管路延長と比較すると改修を行った箇所は小さくなっていますが、状況を常に把握するための巡視点検を確実に実施していきたいと考えています。

(7) 藤沢市は類似団体と比較すると管渠の老朽化率は高く、改善率は低くなっているが、そのあたりの状況について説明していただきたい。

《回答》

藤沢市は早い段階から管渠整備を行ってきましたが、同じように老朽化が進んでいるのは政令市等の大都市であり、藤沢市くらいの中小の都市はそこまで老朽化が進んでいない状況です。また、他市の方が改善率が高いというのは政令市等の対策が進んでいるので率が上がっているものと分析しています。

(8) 経常費用と営業費用の違いなどをもう少し説明していただくとその中身が経常収支比率とどのように関係してくるのかということが分かりやすくなると思う。  
また、電気代の高騰等動力費の増加に対し、今後どのように対応していくかという点が料金の値上げとも関係してくると思うので、よく分析をし、市民の方に今の経営状況を説明できるようにしていただきたい。

(9) 料金の改定は電気代等の高騰を踏まえて算定されたものか。

《回答》

中期経営計画では令和5年度については過去からの推移をもとに予測を立てて電気代の上昇分を反映していますが、その先は反映していません。今後の状況次第で、計画値を見直すのか、下水道使用料をどうするのかということを検討していかねければならないと考えています。

(10) 早くから下水道を整備している分、老朽化しているのは仕方ないので、点検をしっかりしていただきたい。

(11) 資料3の有収率について、有収率を上げると経費回収率が上がるのか、また、有収率を上げる手段は何か検討しているのか。

《回答》

有収率は、処理した水量に対してお金をとっている水量の割合ですが、降雨時に地下水や誤接続により不明水が浄化センターに入ってきてしまうことが原因です。それが入る隙間をすべて埋めるのは相当な時間がかかること、また調査をしても原因箇所を特定するのが難しいというのが実情です。また、不明水を減らしても汚濁負荷量には影響がないことから、処理費用が劇的に下がって使用料に影響するところまではいかないのではないかと考えています。

	<p>(12) 有収率は他の自治体でもこれくらいの数値か。</p> <p>《回答》 令和3年度の近隣市の決算値を見ると、横浜市で71.9%、川崎市で85.3%、横須賀市で76.9%となっています。藤沢市は令和3年度は80.2%、令和4年度は84.1%となっており、大体同じくらいの数値になっています。</p>
<p>その他</p>	<p>1 包括的民間委託の進捗状況について</p> <p>(13) 議題1の資料2の説明の中で、ストックマネジメント事業において、入札不調が多かったとの話があったが包括的民間委託ではどうなのか。</p> <p>《回答》 調査などを一つの業務として発注した際に入札不調が起こったということがありました。包括的民間委託においては、複数の業務をパッケージ化し、それぞれの業務に携わる業者さんで企業体などを組んでいただき、複数年で業務を進めることにより入札不調を防止したいと考えています。</p> <p>2 令和5年度下水道PR事業について</p> <p>(14) 前回生涯学習出張講座の案内があり、善行の生活環境協議会として辻堂浄化センターに見学のお願いをしたところ、善行なら大清水を見学したらどうですかと断られたことがあった。辻堂で新しい建物が建ったので見学してくださいということも言われていたのだが。</p> <p>《回答》 不適切な対応があり申し訳ございません。担当者としてはお住まいの地域の下水を処理している方を見ていただいた方がよろしいのではないかとということでそのようなご案内をしたのだと思いますが、再度調整させていただきたいと思います。</p> <p>(15) 昨年大清水浄化センターの下水道フェアに参加して、たくさんのお客さんが来場されていたが、どこで何をやっているのか分かりにくいのがもったいないと感じた。せっかく来てくださった方にもっと興味を持っていただけるよう積極的に呼び込んでもらいたい。</p> <p>《回答》 呼び込み、アナウンスなどについて検討し、初めて来たお客さんでも迷わないような形を考えていきます。</p> <p>3 今田ポンプ場の事件について</p> <p>(16) 本来、人が立ち入ることができない場所で起きた事件ということで、市民の方も非常に不安を感じる場所があったと思う。今後ともしっかりと維持管理をお願いしたい。</p>